

忍術心

のてらり

二丁編

種久保

〜みゆ〜

廣長流持



〜 13
3755
15





志 總 物 怪



十景曲多國

上編八廿



門へ13  
3755  
巻15

糸縫物結  
廿八篇  
上集

魚子  
魚子



一

往昔神武天皇の御宇葛城山の土蜘蛛の自己糸を以て巢を営む身  
 には有るる葛網を以て捕まへて物を損ふ糸を用ひ人か捨つに  
 網を脱ぎて自業自得といはれしや一而耳吾白縫も筆小信蜘蛛の巢とい  
 たるや手速ぶ丈四方八面へ眼を配り佳種とてつけ次第小引懸あき  
 時と揮て脚色とあすの件の子の所業小侶とて運筆の渠が身の  
 軽きに似ぬのみならずで廣げ一多端結寄る満尾の地に甚難苦く今  
 か胸の安かぬ羅をりものご自己罷ふかると等しと嘆息するの  
 蝶蜻の術の糸を文章とす

安政七年庚申新刊

柳下亭のあり  
種員あり







いほのこひんちり  
三十三の松  
冬加松  
後八郎武門  
真龍の戸



三十三の松





















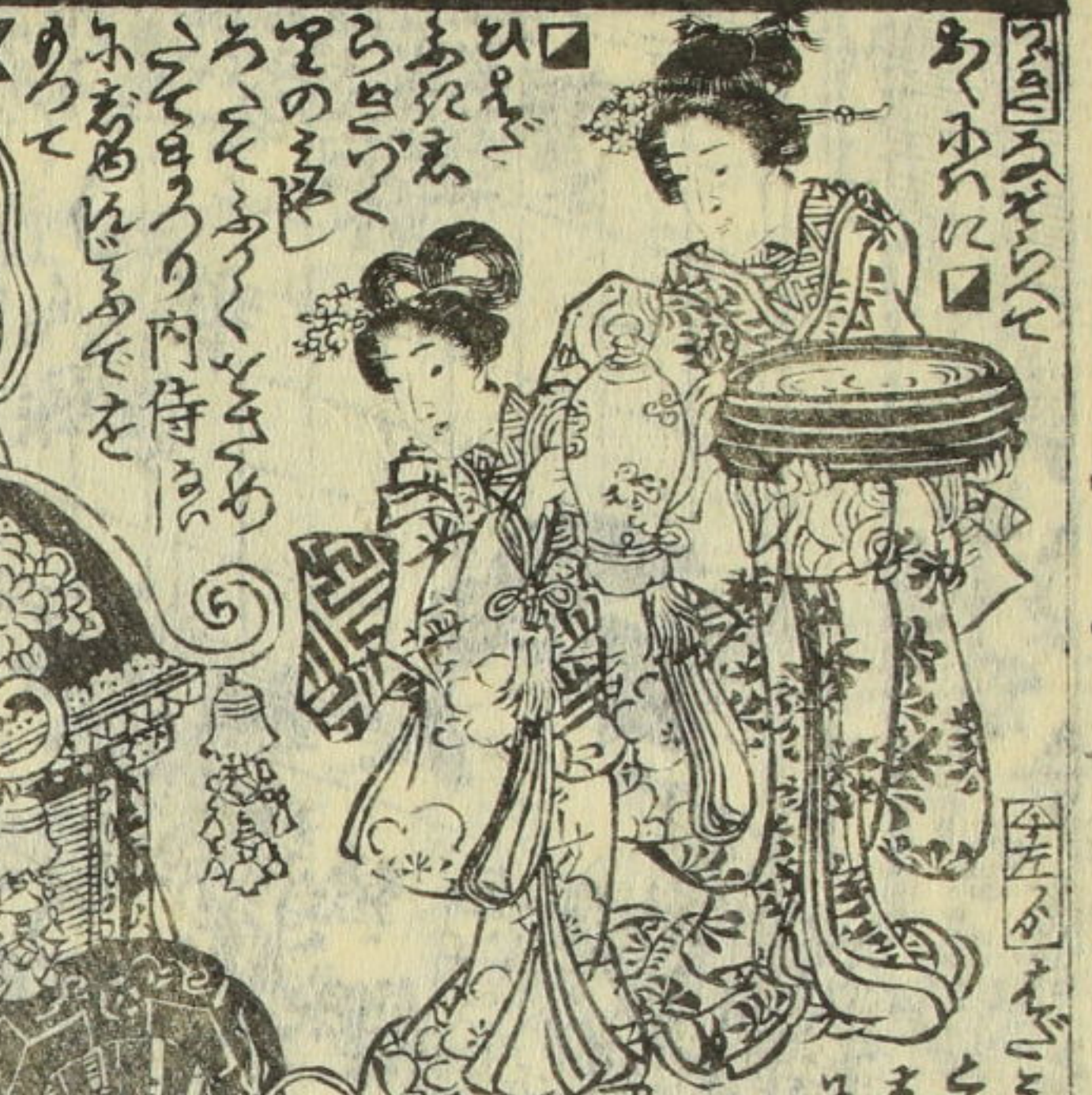




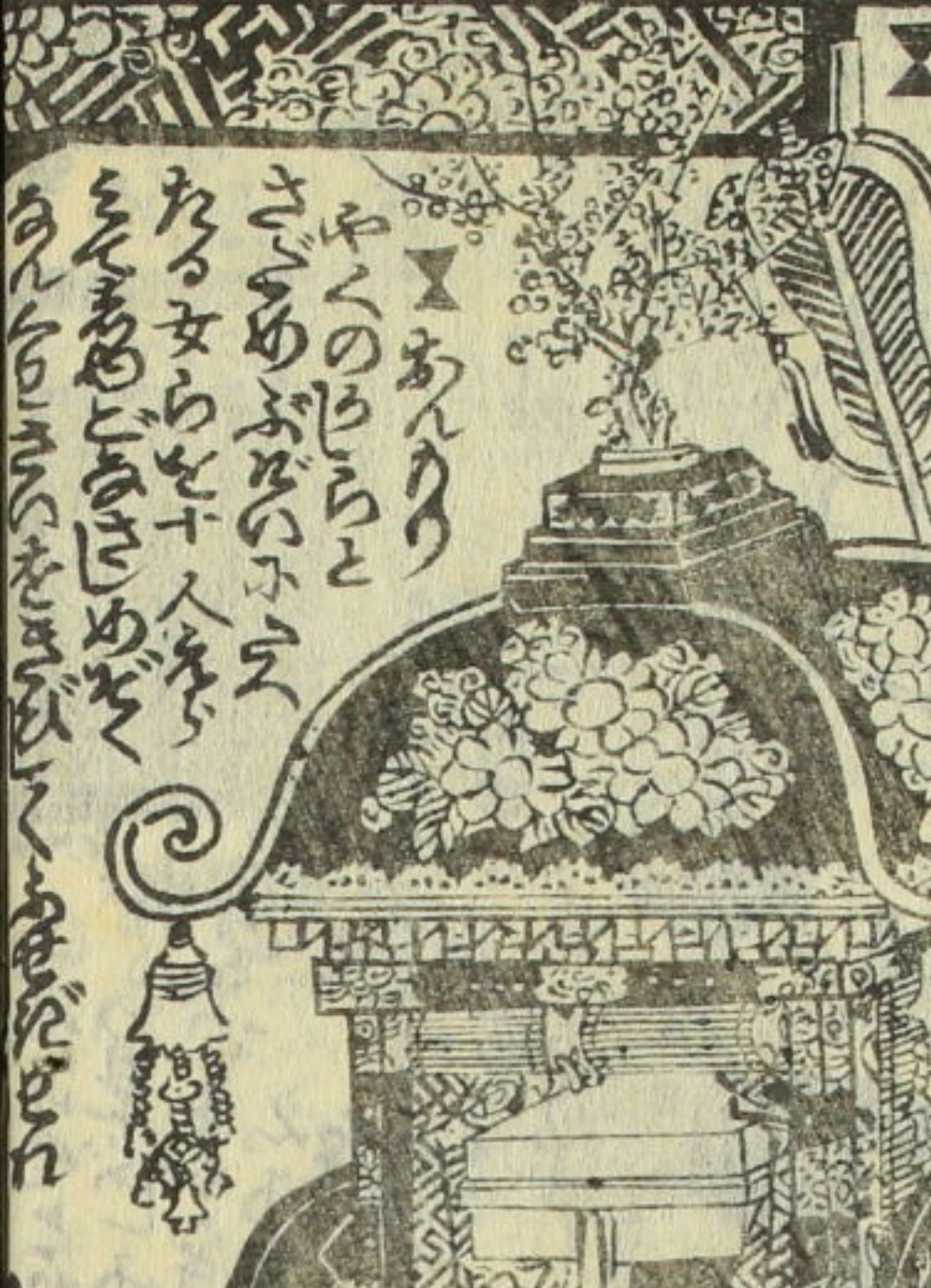




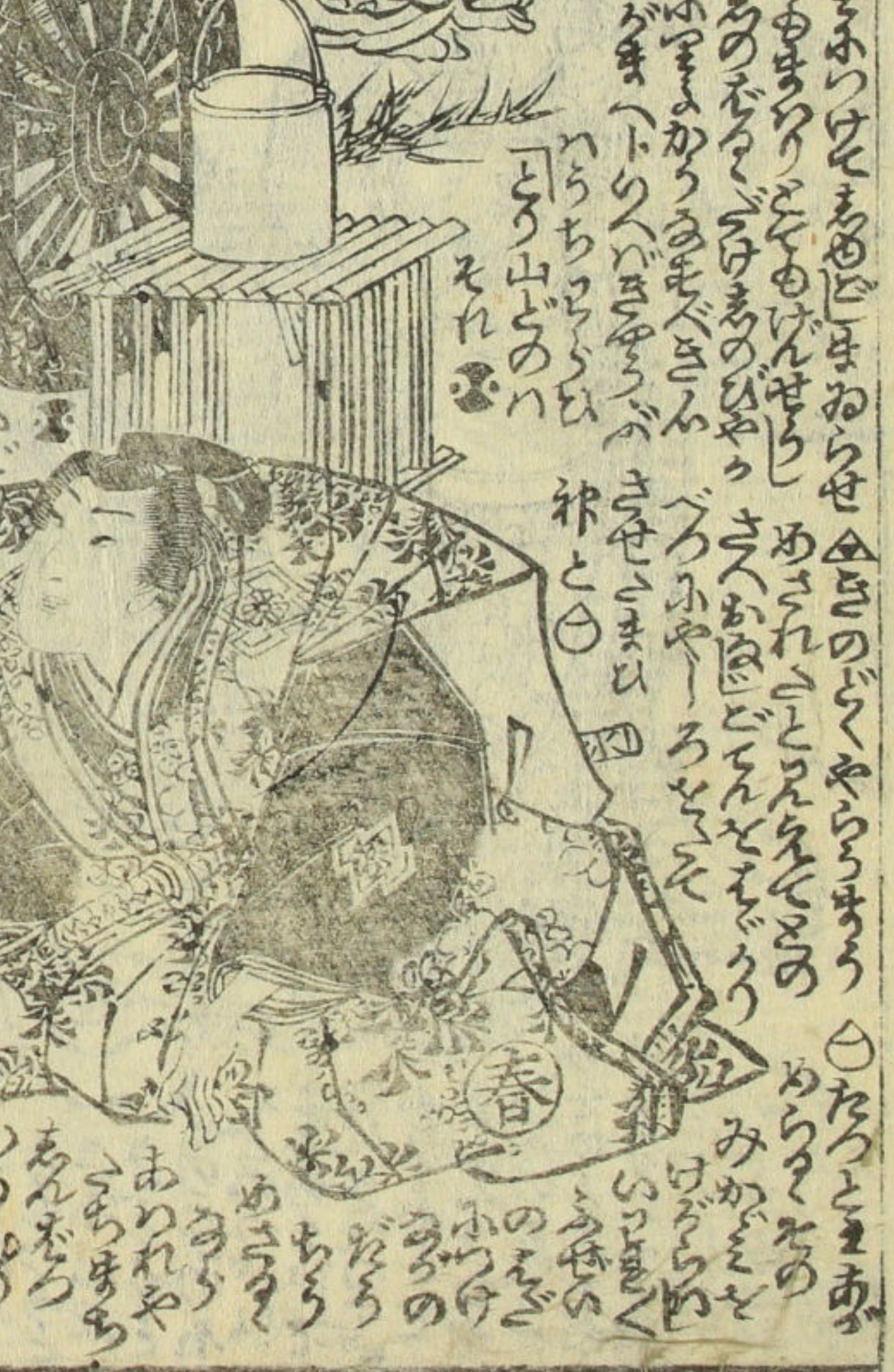




あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



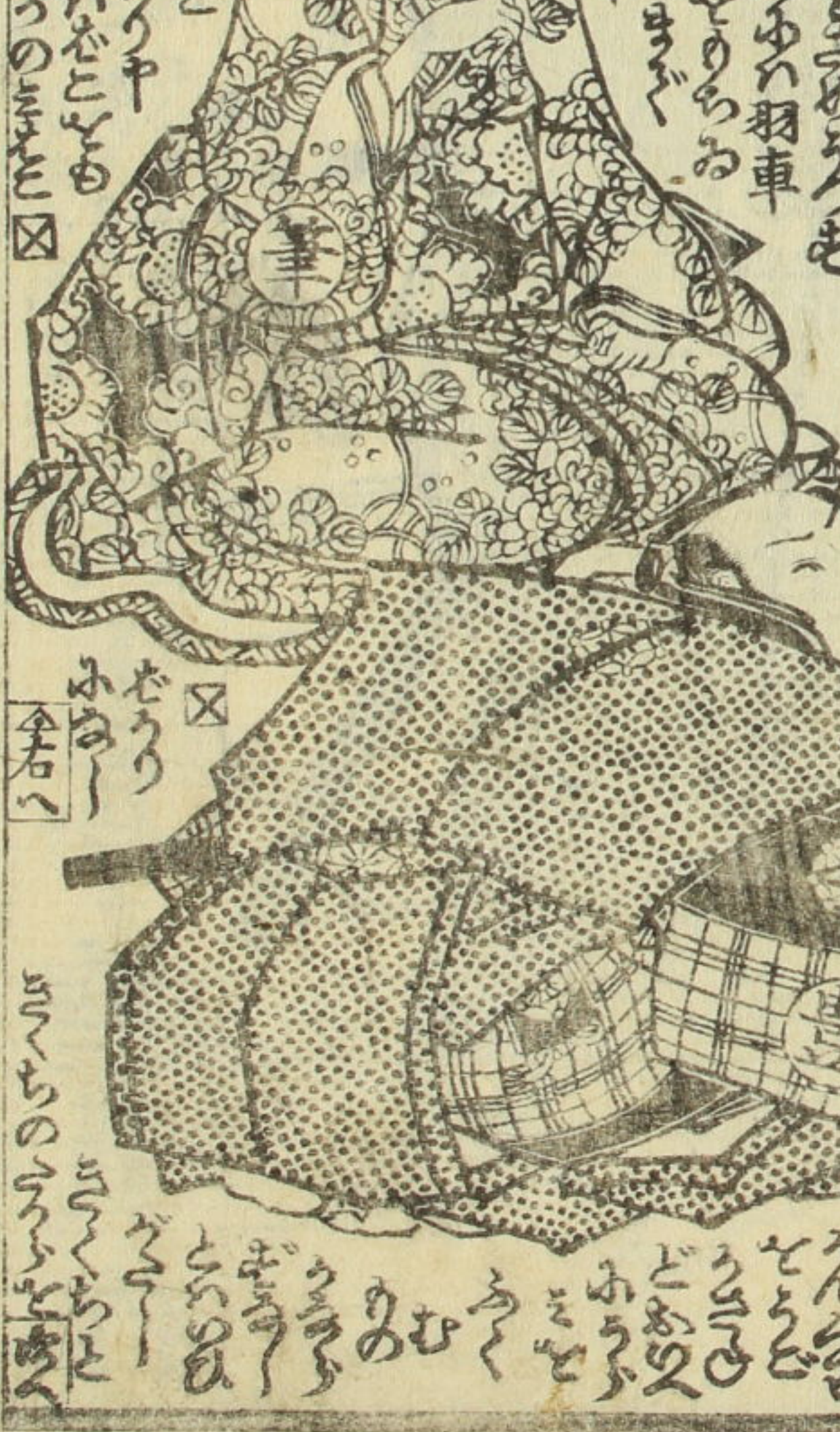
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの







廿八編下

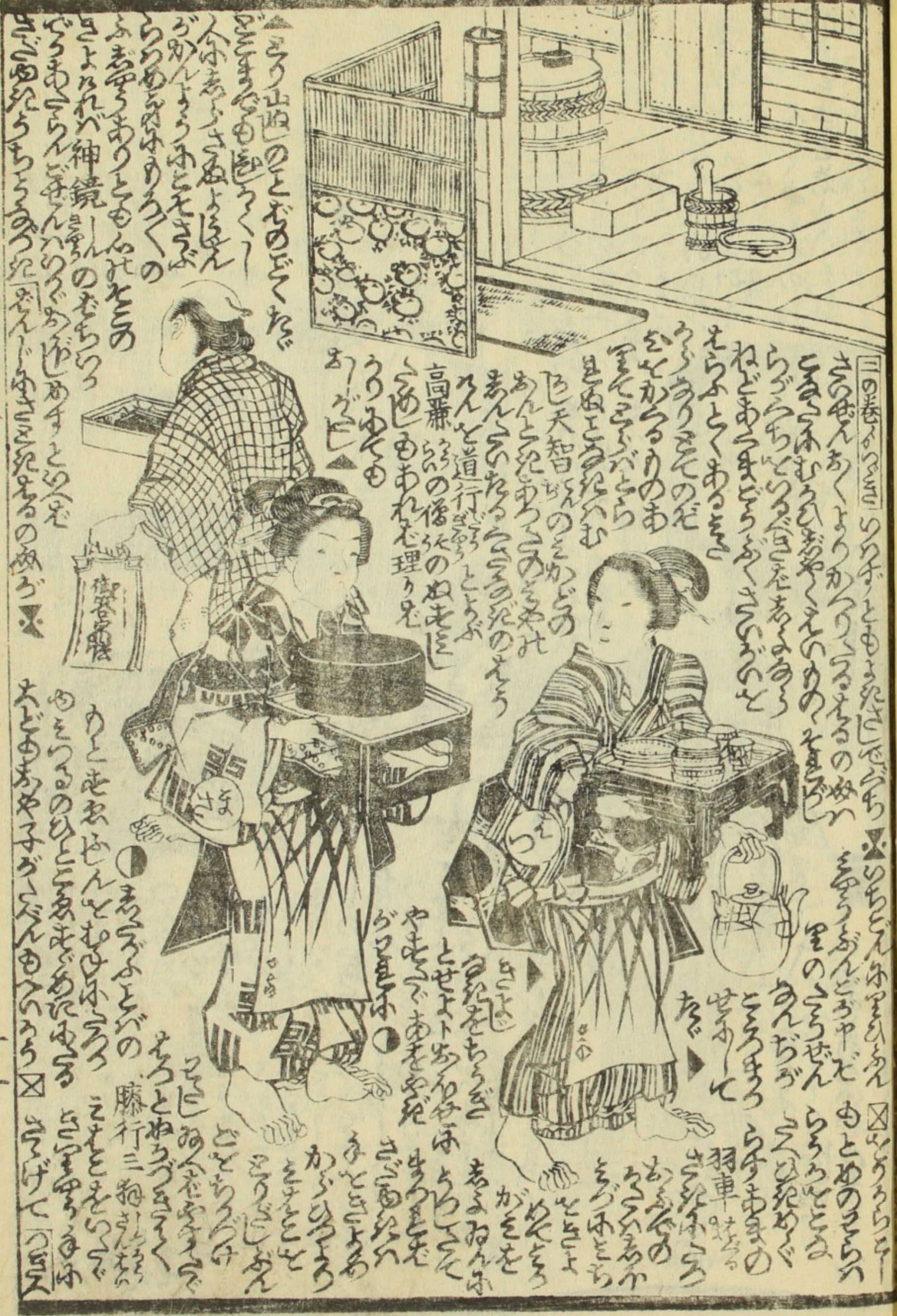


種彦作  
國貞画

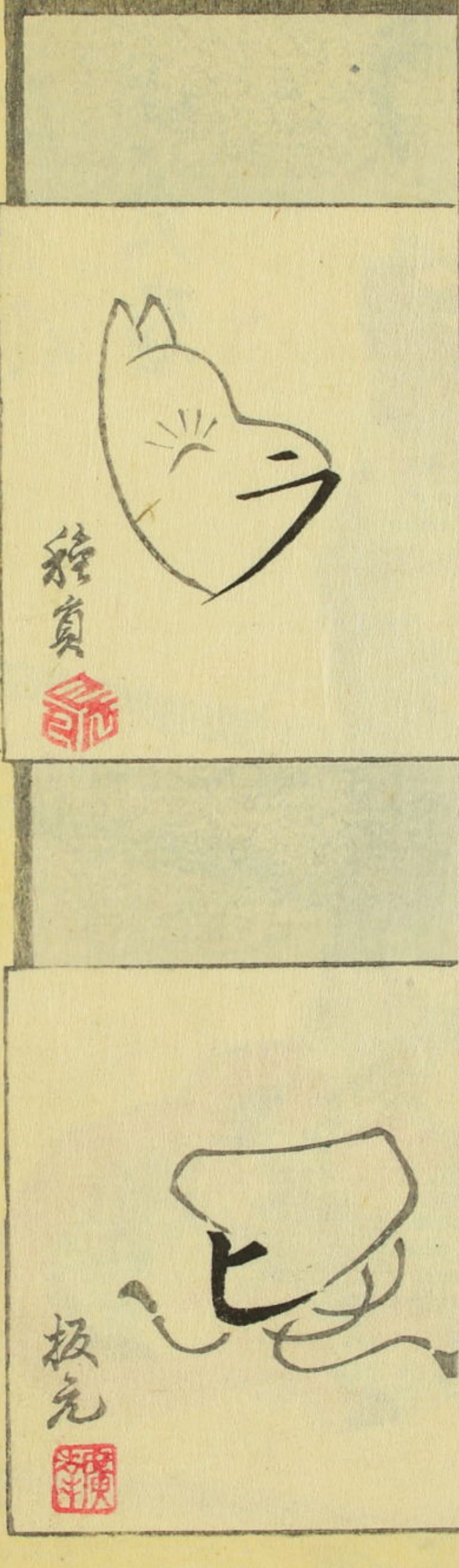
廣  
坂







三の巻の...  
 高兼...  
 うりゆき...  
 あざ...  
 三の巻の...  
 高兼...  
 うりゆき...  
 あざ...  
 三の巻の...  
 高兼...  
 うりゆき...  
 あざ...



終貞  
 終貞

板元  
 板元

廿八編  
 園貞  
 園貞





















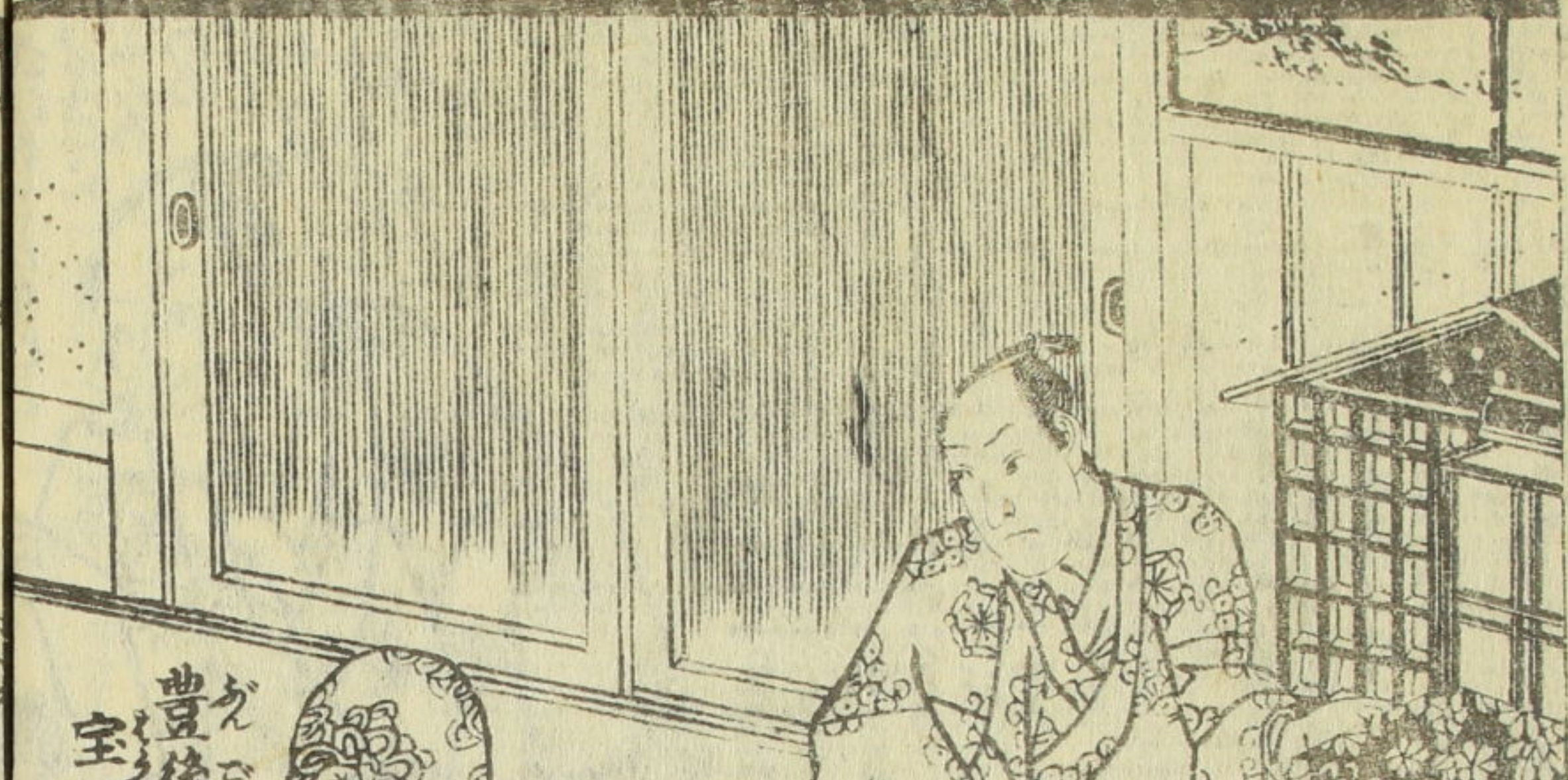
博多  
本陣



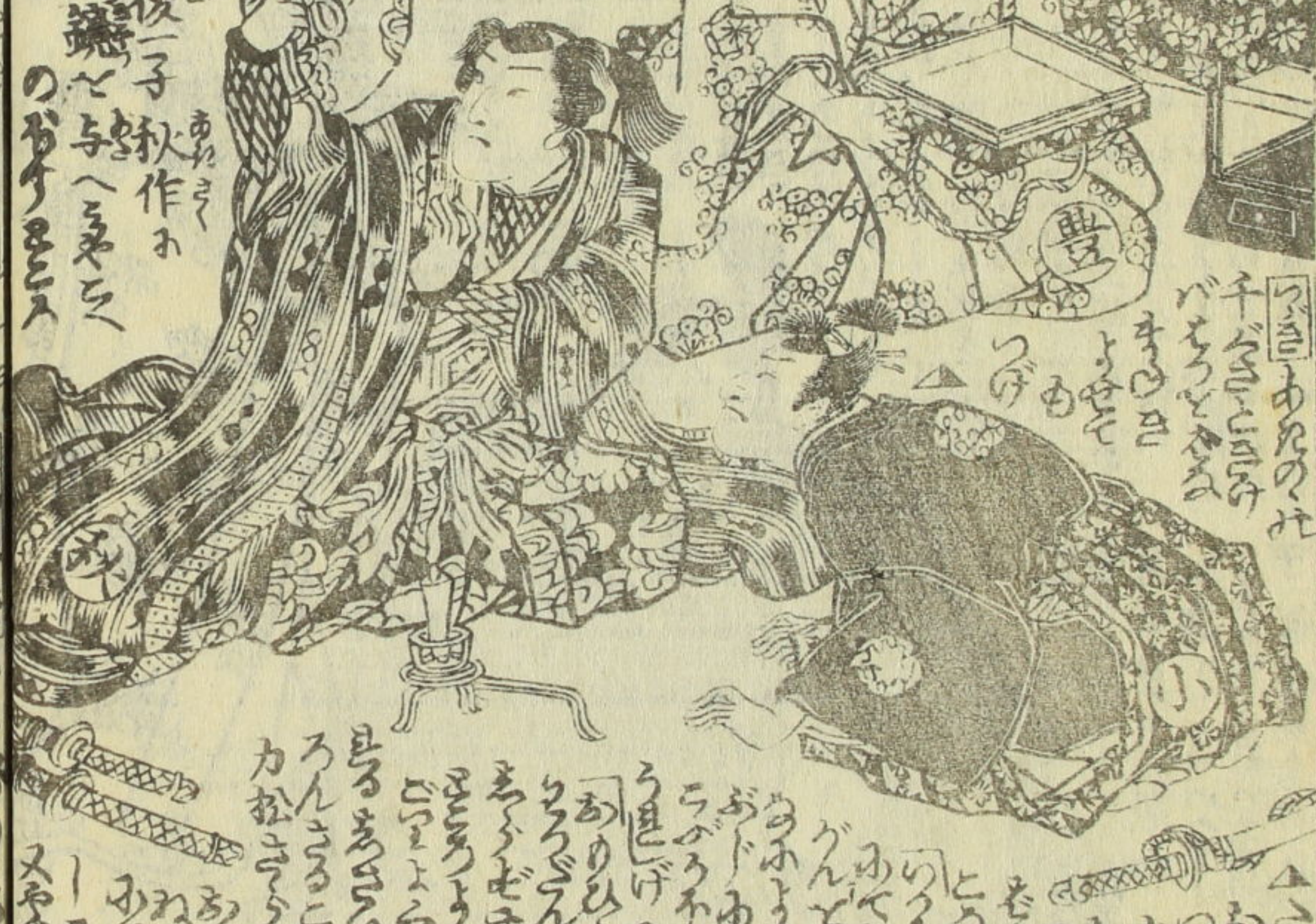
花印  
表

よかたがあんいどまう  
ひまなれどんちありて

あつたまのえさむそ  
あつたれえさむそ  
つゆりのとあけし  
小文次めろさよこ  
たんはありとく  
さうとえん  
をうらなれがあれ佐  
とうとをえうり  
のふ小がえしひさく  
あてあんうらえしれん  
ぐんとそのしをい  
あふよりまんぞくまゆ  
おどあてめをいとう  
らうわに小文次めいと  
う色げはやあうまとい  
あひひもけぬあぬま  
らうえんさといあゆ  
まうぞうあまうのあ  
まうまうまうまう  
あつたまのえさむそ  
あつたれえさむそ  
つゆりのとあけし  
小文次めろさよこ  
たんはありとく  
さうとえん  
をうらなれがあれ佐  
とうとをえうり  
のふ小がえしひさく  
あてあんうらえしれん  
ぐんとそのしをい  
あふよりまんぞくまゆ  
おどあてめをいとう  
らうわに小文次めいと  
う色げはやあうまとい  
あひひもけぬあぬま  
らうえんさといあゆ  
まうぞうあまうのあ  
まうまうまうまう



豊後  
子



あつたまのえさむそ  
あつたれえさむそ  
つゆりのとあけし  
小文次めろさよこ  
たんはありとく  
さうとえん  
をうらなれがあれ佐  
とうとをえうり  
のふ小がえしひさく  
あてあんうらえしれん  
ぐんとそのしをい  
あふよりまんぞくまゆ  
おどあてめをいとう  
らうわに小文次めいと  
う色げはやあうまとい  
あひひもけぬあぬま  
らうえんさといあゆ  
まうぞうあまうのあ  
まうまうまうまう



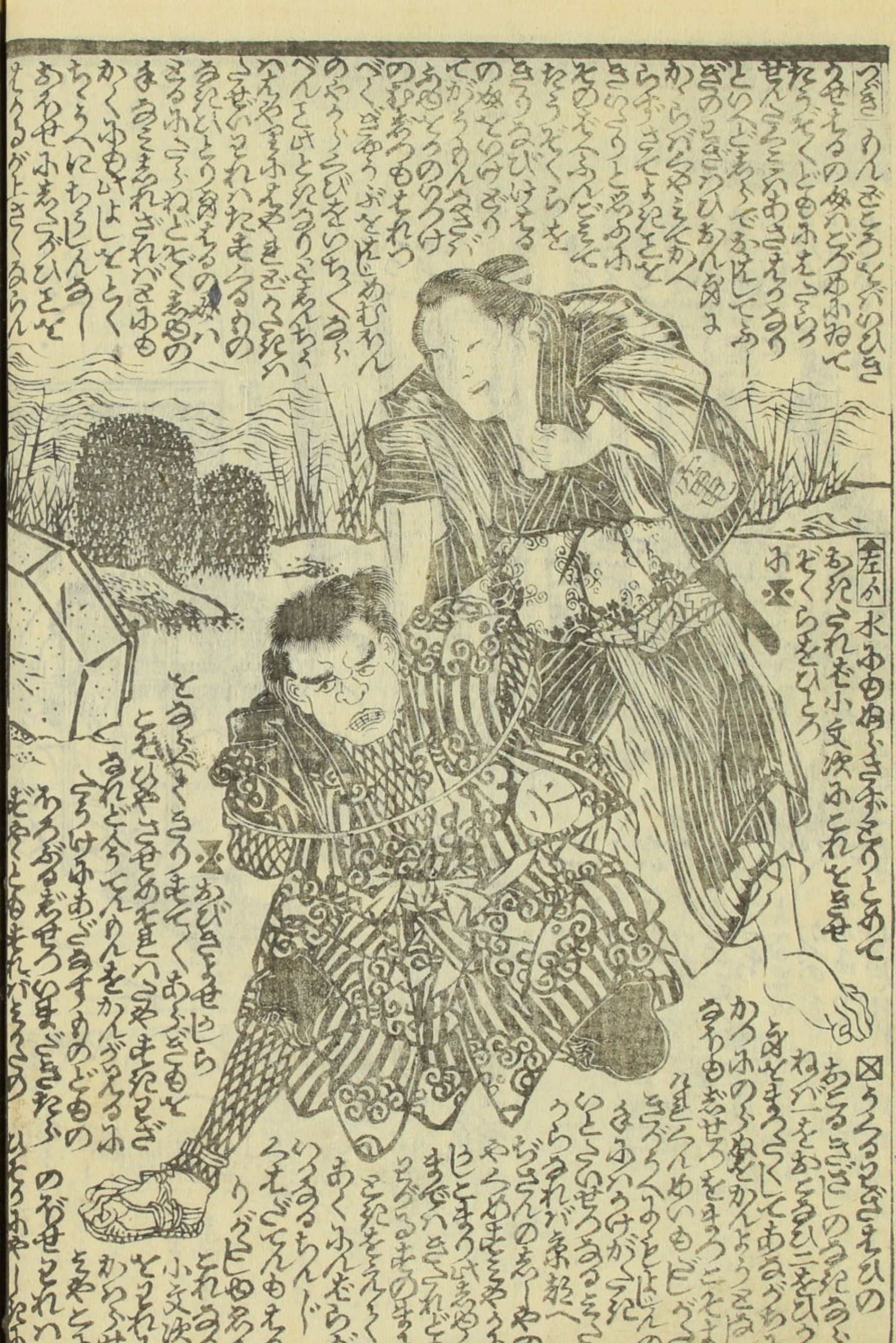






とて... 小文...  
あつ...  
あつ...  
あつ...

あつ...  
あつ...  
あつ...  
あつ...



あつ...  
あつ...  
あつ...  
あつ...

あつ...  
あつ...  
あつ...  
あつ...

あつ...  
あつ...  
あつ...  
あつ...











# 國貞画種員作



あつちあつちのこと  
いひまわりのこと  
こころあつちのこと  
こころあつちのこと

あつちあつちのこと  
いひまわりのこと  
こころあつちのこと  
こころあつちのこと

あつちあつちのこと  
いひまわりのこと  
こころあつちのこと  
こころあつちのこと

安政六己未  
新刻發兌

## あつちあつちの譚 嗣編 概略

廿八編  
小

若菜姫お牛と屠利 刑部喬梓の満汐辛き目と存と計も淡と  
塞ぐ捕手うぬぬ鳥山豊後と不側の出會春の助等謀畧の蓋をも  
とこ心管出奇のまのひのまのひをき 緑林顔も青める阿修羅丸が敗北の妻

廿九編  
小

斤意小瘦て色あき白梅が嫉妬の怪談焼耐火を闇の文うき黒幕り  
一旦減りく雨車の鳴物小繫き五月雨霽く夏野の書割貞行小  
折らく小刺小姓と娘後面の所作更安養坊が乱行の怪き縁を引道具

三十編  
小

多甲之助が怪猫退治の頼政の鶴小似て葛蒲小あゝぬ石竹の妹と吾目す  
常夏の傳花の御所小花を飾り偶居の梅津小實入の秋作就鳥津兄  
弟の義烈符節を合する奈小至り若菜姫の事と轉す

## 地本草紙問屋人形町通住吉町廣岡屋幸助板

備書交末

廿九編  
小





和  
画  
作

國  
貞  
畫

廿九編上

外題曲五國色

慶長後橋





心々ぬひ譚 上 廿

九編 柳下亭種員作  
 梅蝶樓國貞畫  
 廣岡屋梓

南無

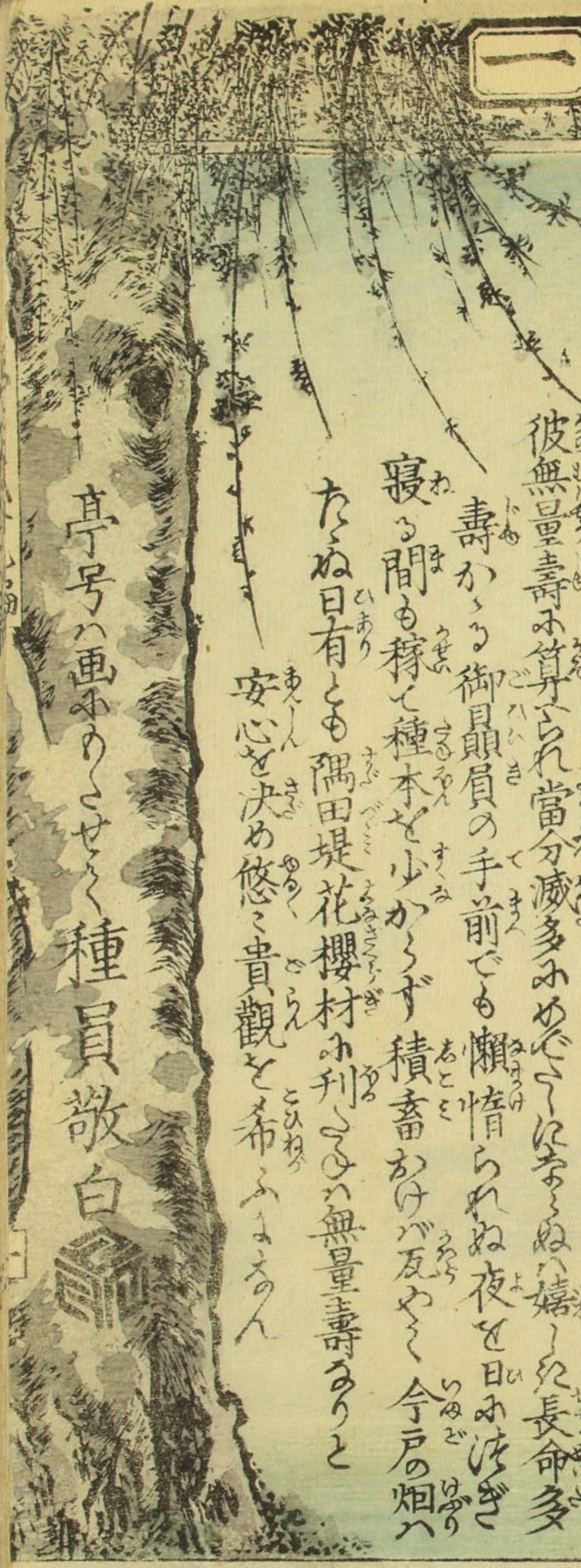
心々ぬひ



始あれ終あり故に生者必滅といふを北州の千年も檀花一日あるも無量  
 壽佛といふ如未有凡夫ふいそ合點のうもど今流行の合巻繪草紙も始ありて  
 終るも多く活きなれぬとて早く結ぶ當時の習俗此白縫も繪と彫と  
 製本の美のが評判となり作者も命を換ふやど骨を惜まぬも有て

彼無量壽の算られ當分滅多ぬぬにさぬぬ嬉し長命多  
 壽かゝる御願負の手前でも懶惰られぬ夜を日か法ぎ  
 寝る間も種々種本を少かず積蓄おけり互やく今戸の烟ハ  
 たぬ日有とも隅田堤花櫻材の刊しみの無量壽ありと  
 安心を決め悠々貴觀を希ふよるん

亭号の画のせき種員敬白





菊池壁妻英浦



初名  
花  
數  
馬  
小

紅葉院現住安養

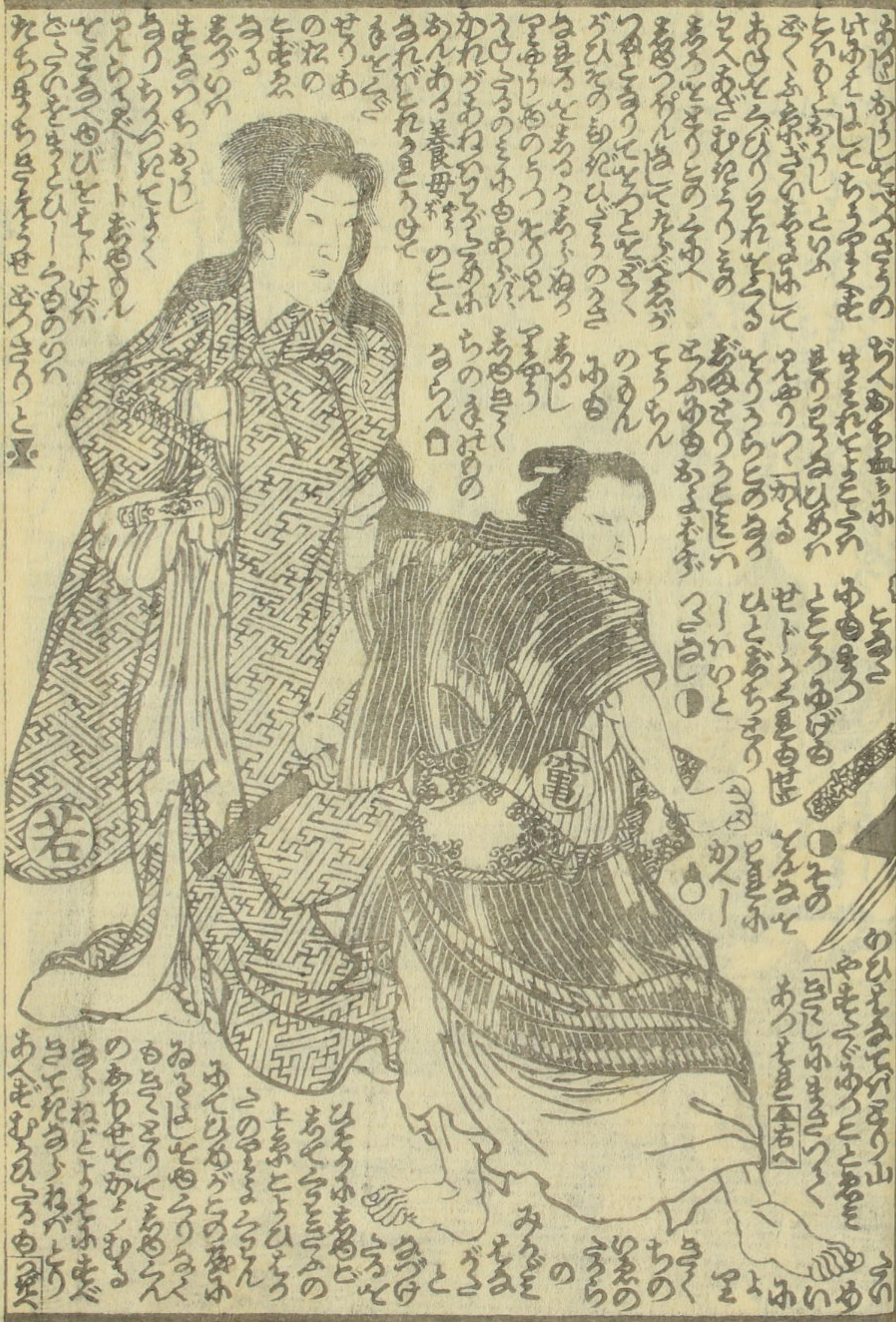


紅葉院現住安養

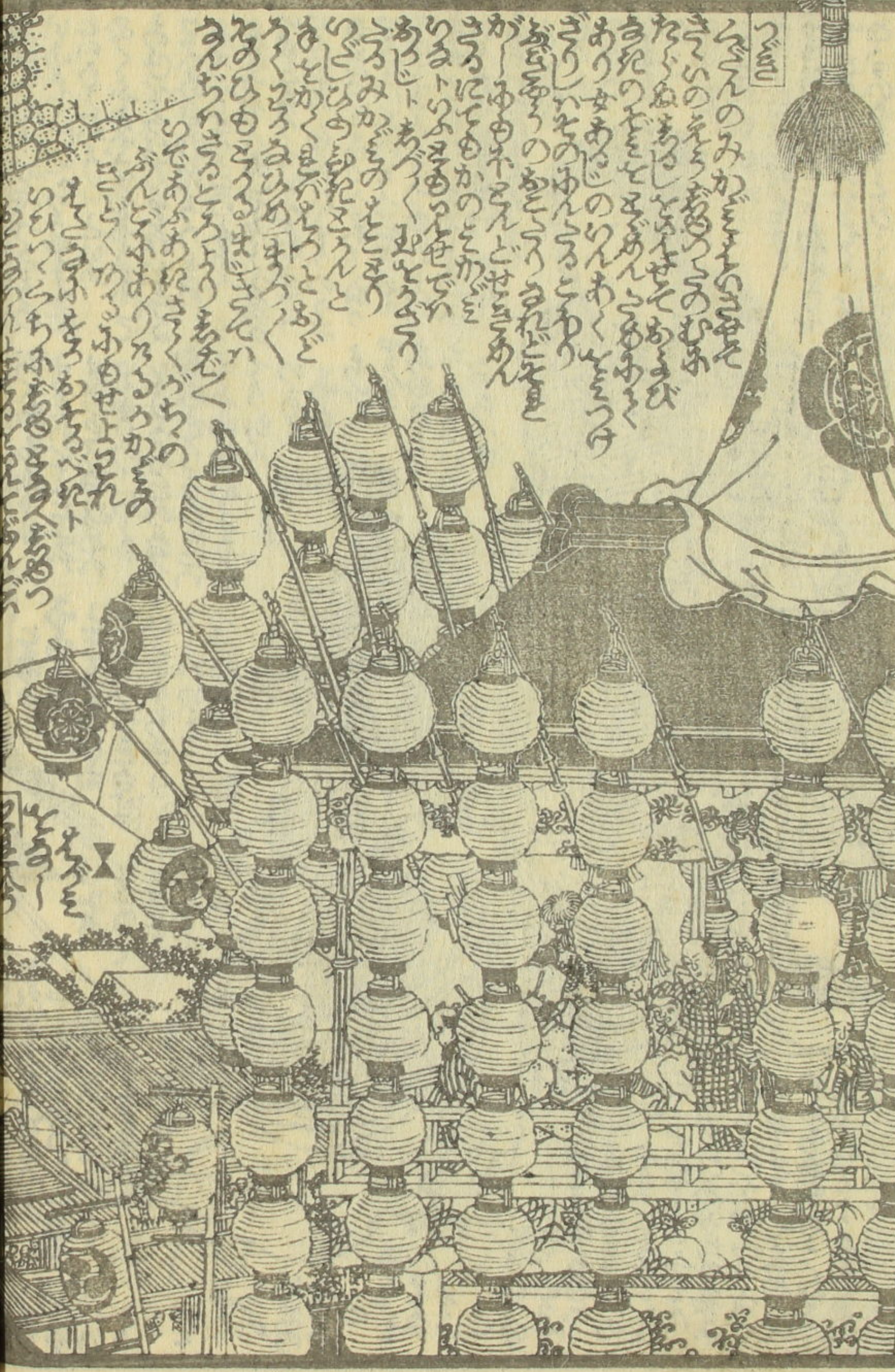
曲五國虫

二十九

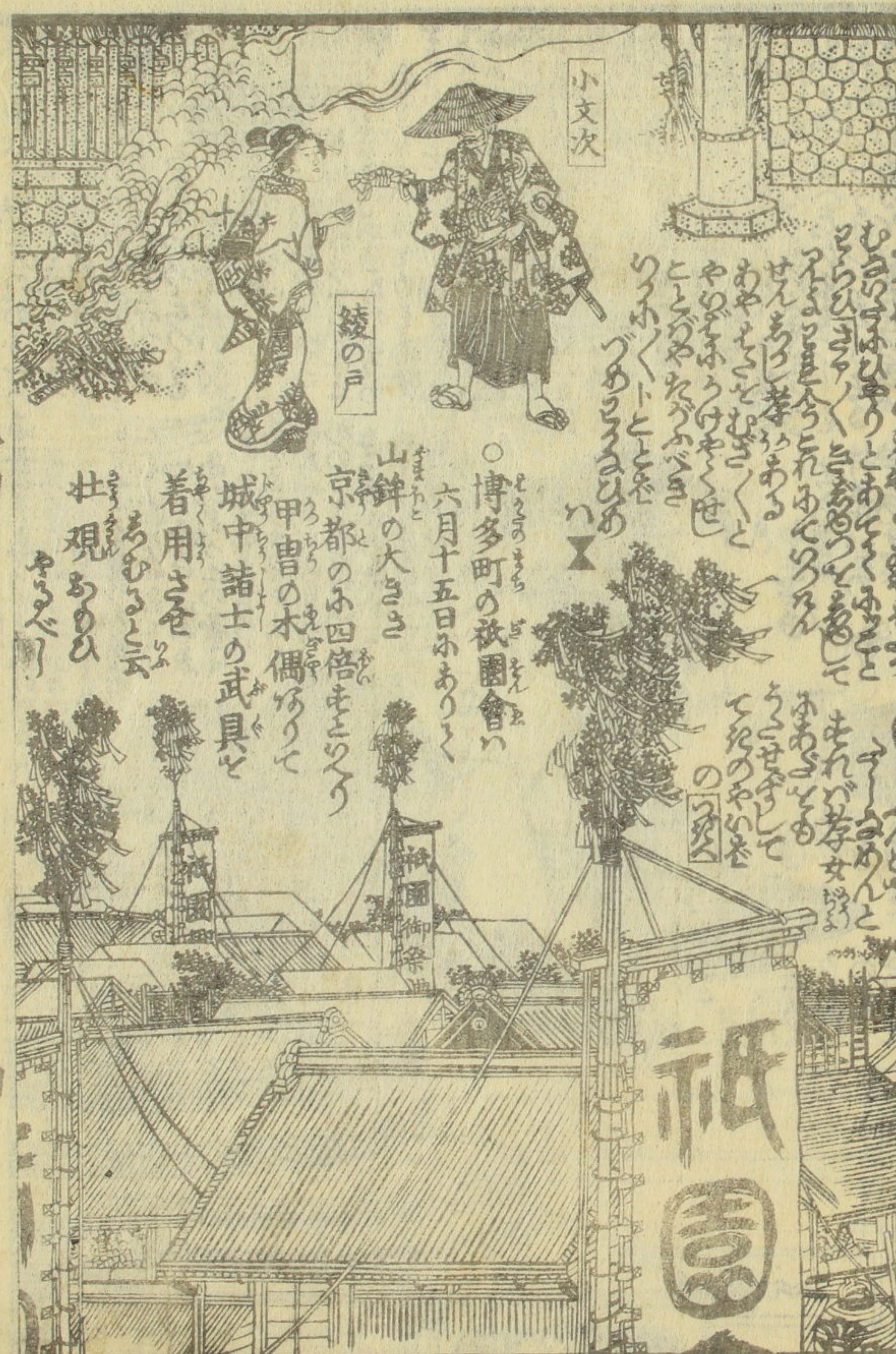








ふんしのみか...  
さうのそら...  
たうぬま...  
あいのそら...  
ありあけ...  
さうのそら...  
か...  
さうのそら...  
あ...  
さうのそら...  
あ...  
さうのそら...  
あ...  
さうのそら...  
あ...

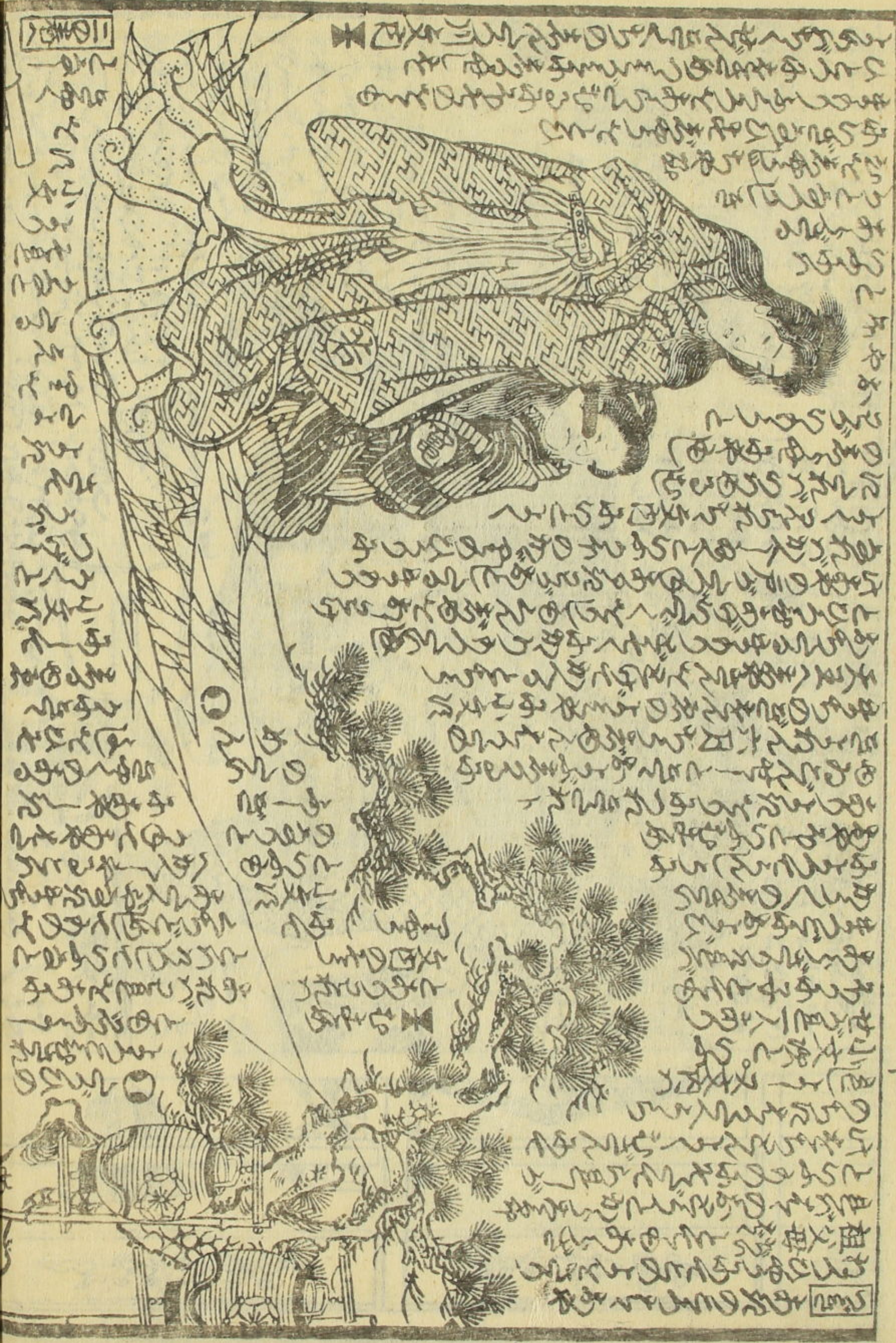
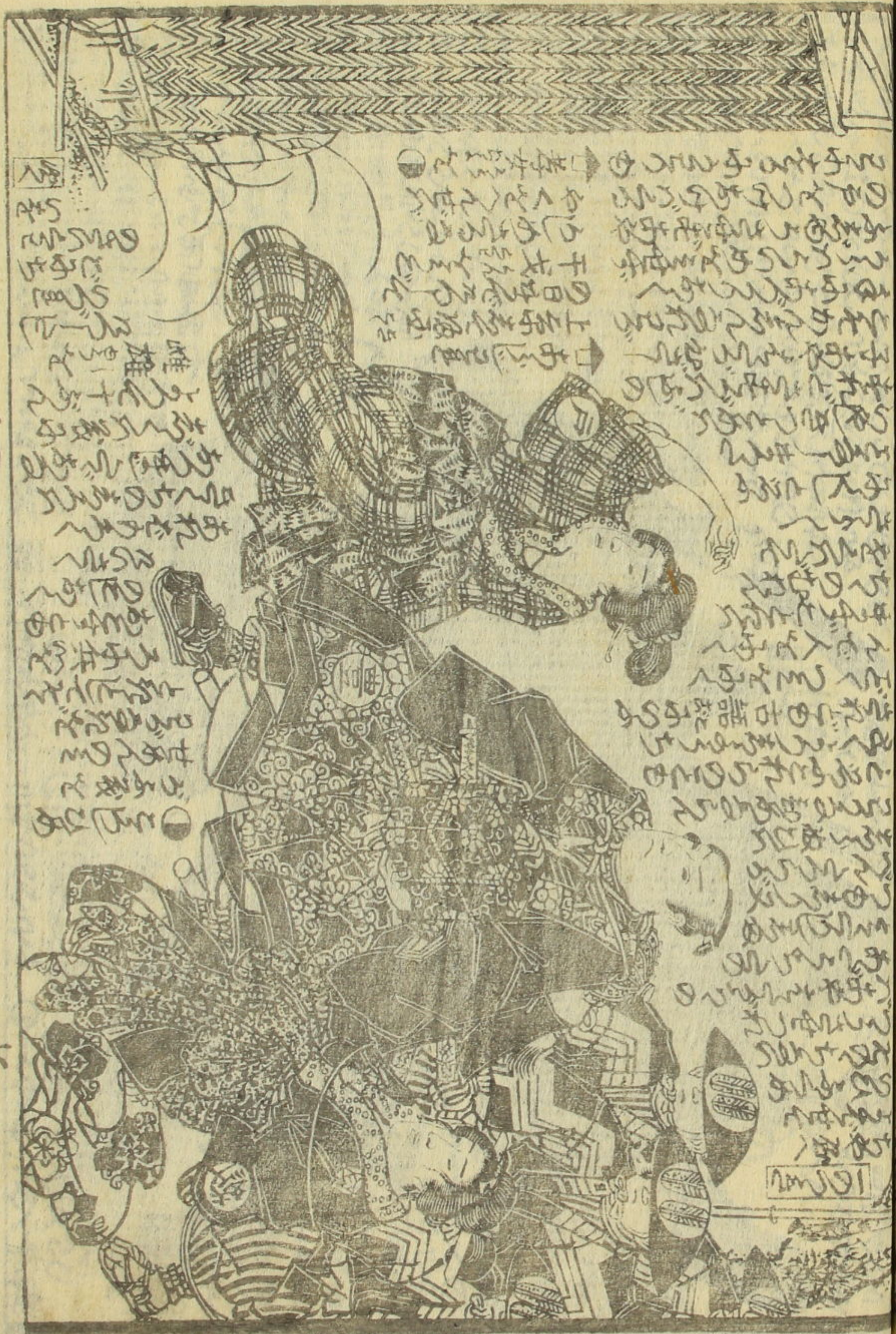


小文次  
綾の戸  
博多町の祇園會  
六月十五日あり  
山鉦の大きさ  
京都のふ四倍  
甲曹の木偶  
城中諸士の武具  
着用  
壯現  
あひ  
あひ













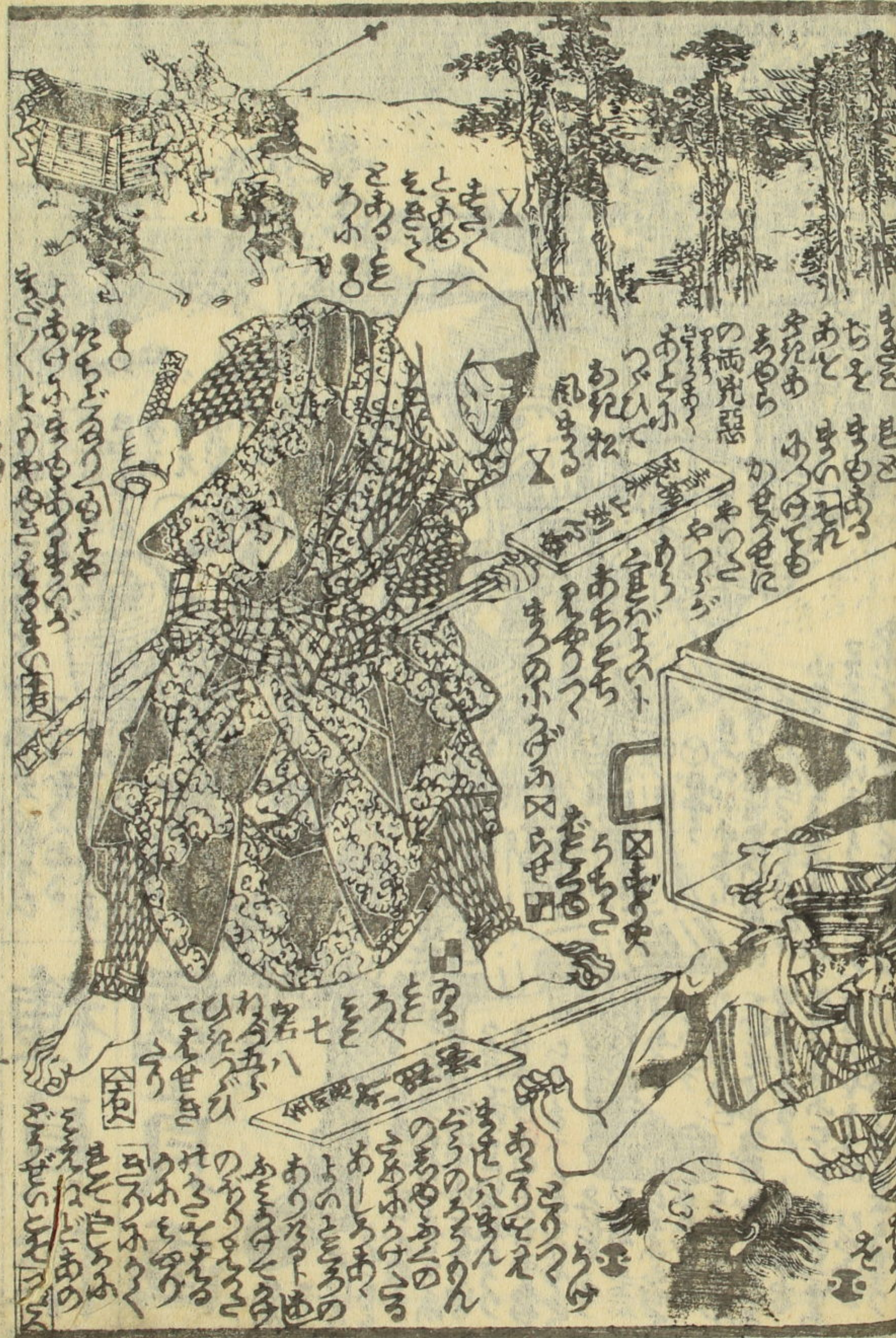






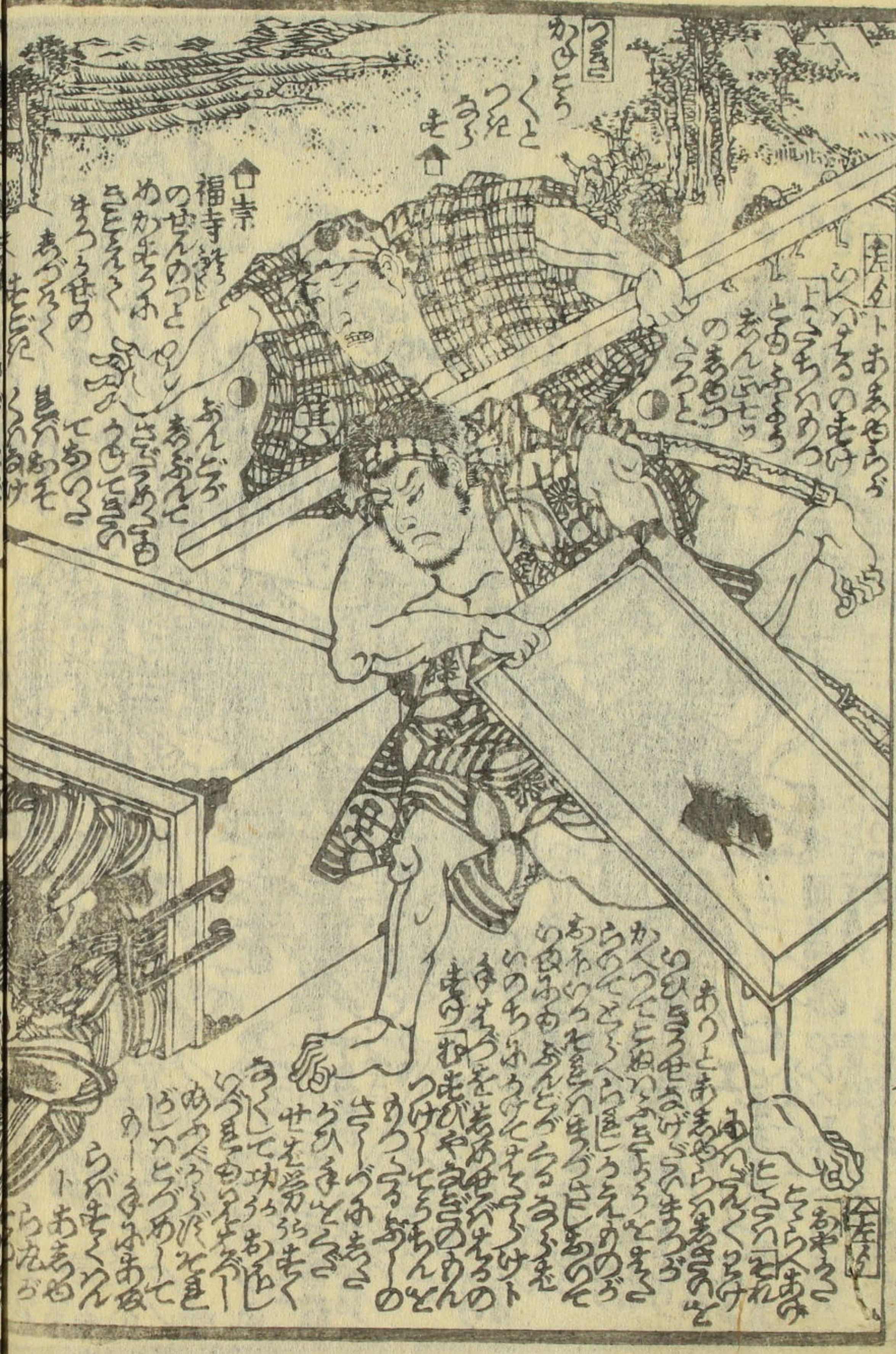






うらみ入士七郎

十



左五トあまあ

九



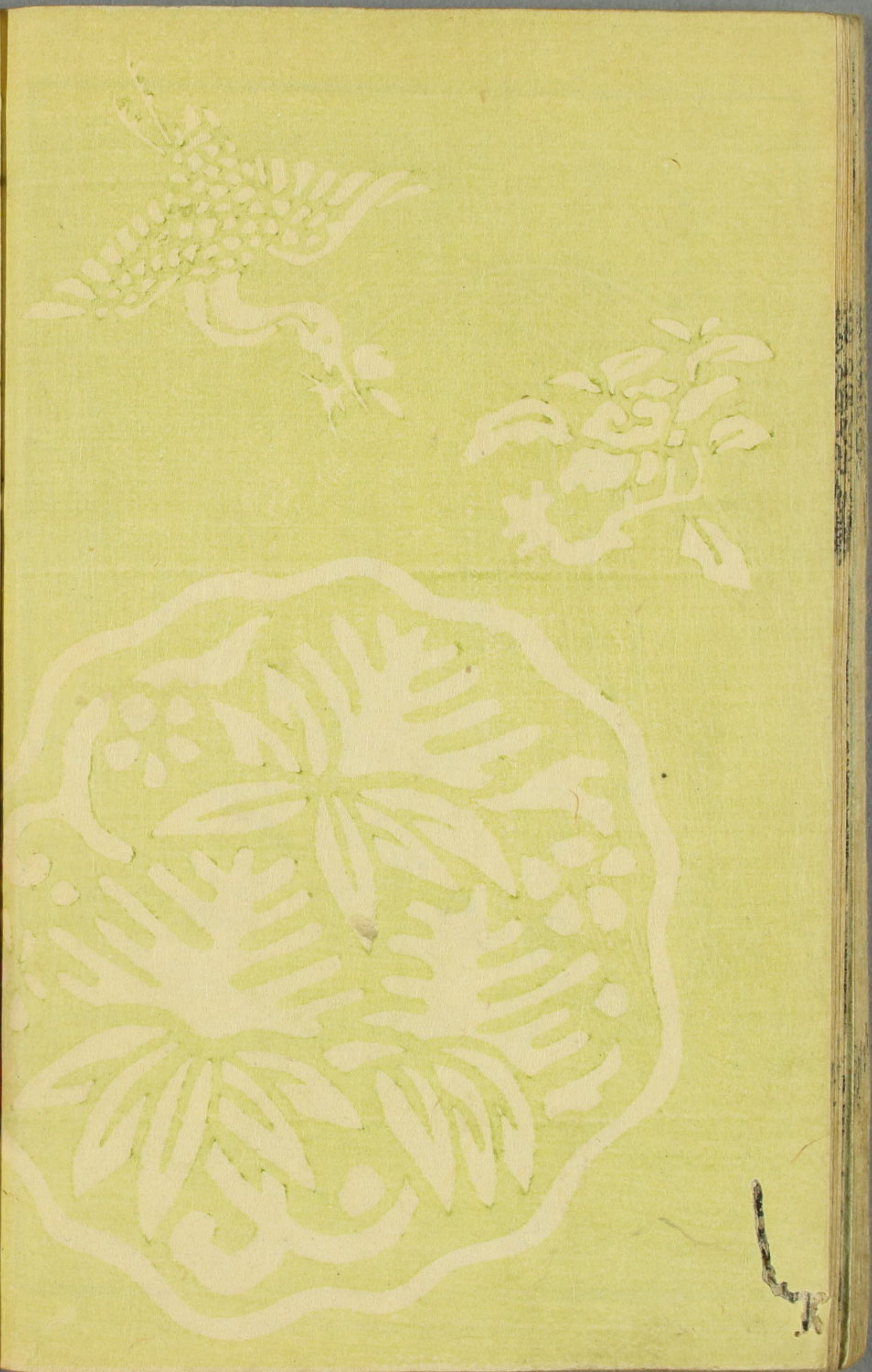




志乃絶  
賀乃絶  
菊季



廿九編下













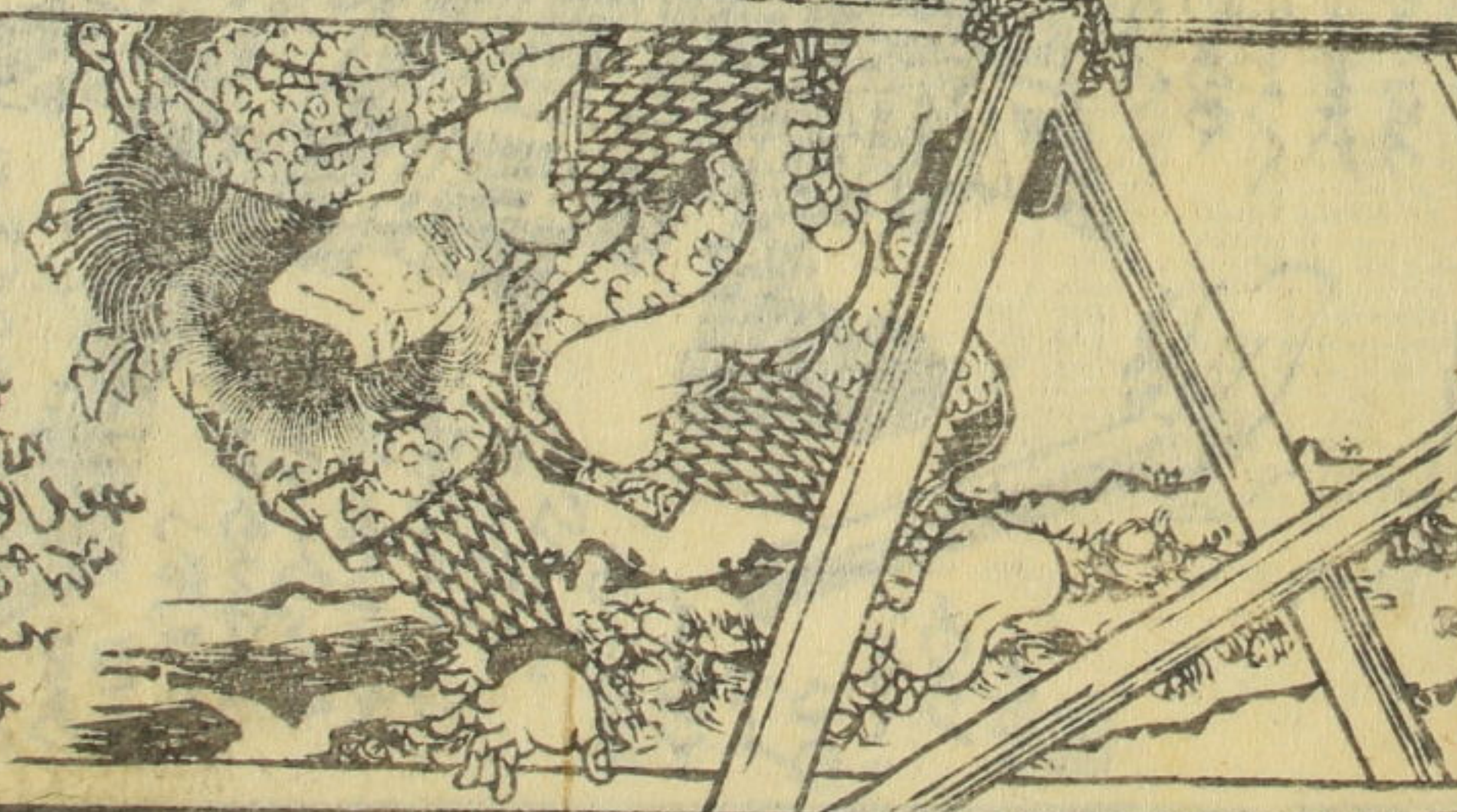




Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the upper illustration. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be part of a larger narrative or commentary.



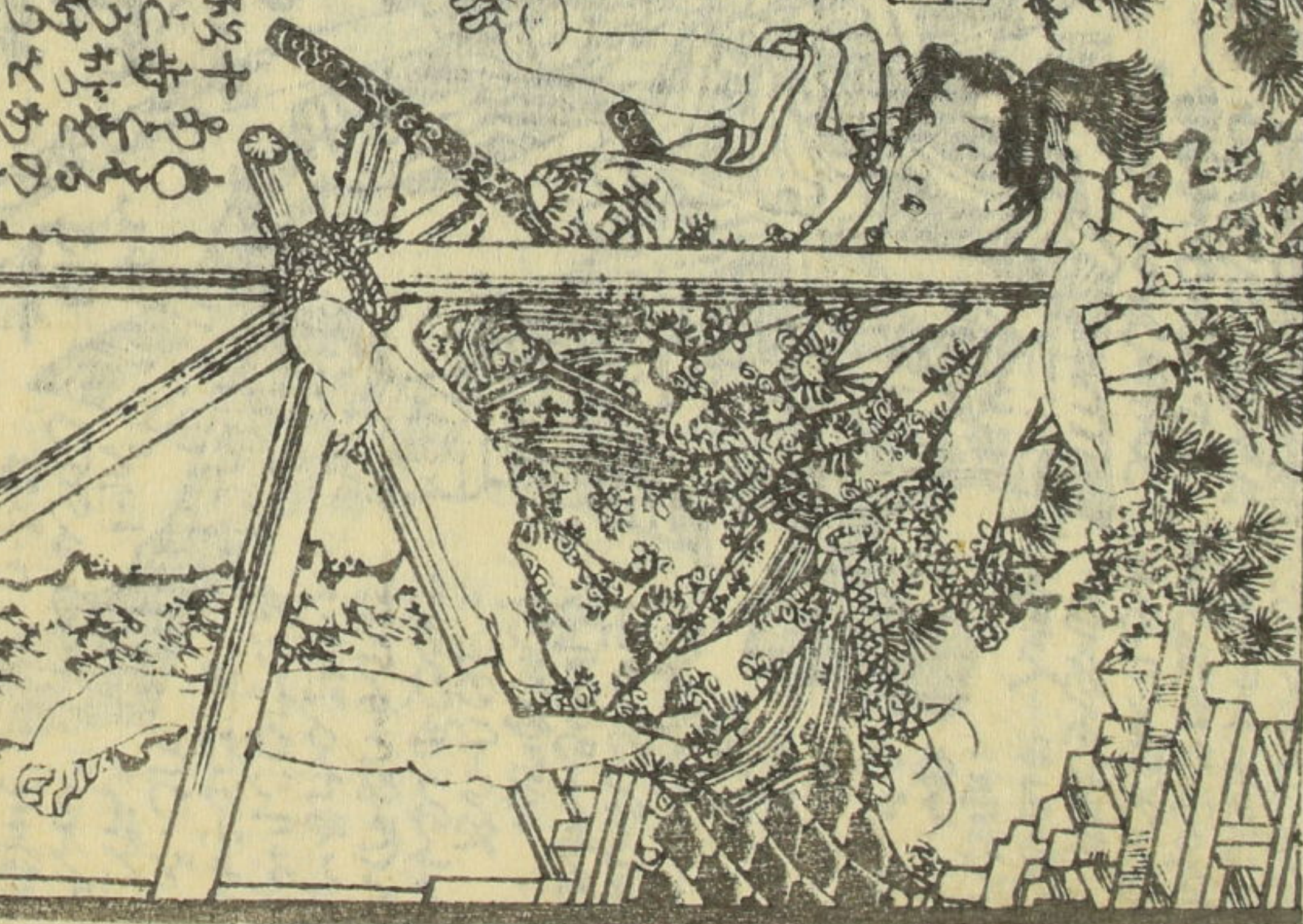
Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the lower illustration. The text is arranged in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the upper section.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the upper illustration. The text is arranged in vertical columns, with some characters appearing to be part of a larger narrative or commentary.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, surrounding the lower illustration. The text is arranged in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the upper section.

























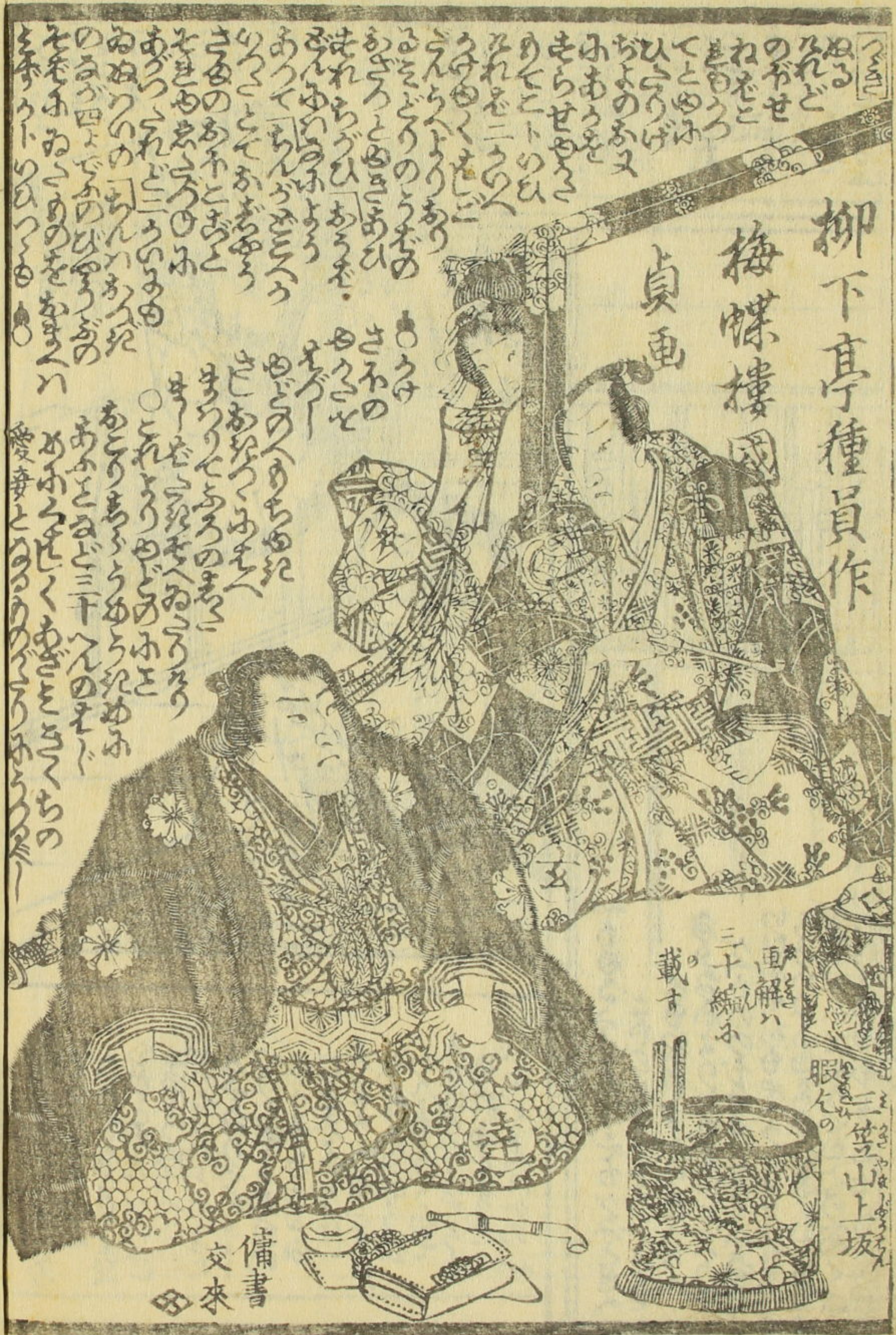




梅蝶樓國貞画

### 柳下亭種員作

### 貞画



安政六己未  
新刊發兌

# あゝぬひ譚 嗣編概略

廿八編  
ふい

若菜姫が牛と屠割刑部喬梓の満夕辛き目もえと計りも漢と  
塞ぐ捕手うゝぬ鳥山豊後と不側の出會春の助等謀畧の蓋をも  
とて宮崎奇のまのけしゆをき緑林顔も青める阿修羅丸が敗北の更

廿九編  
ふい

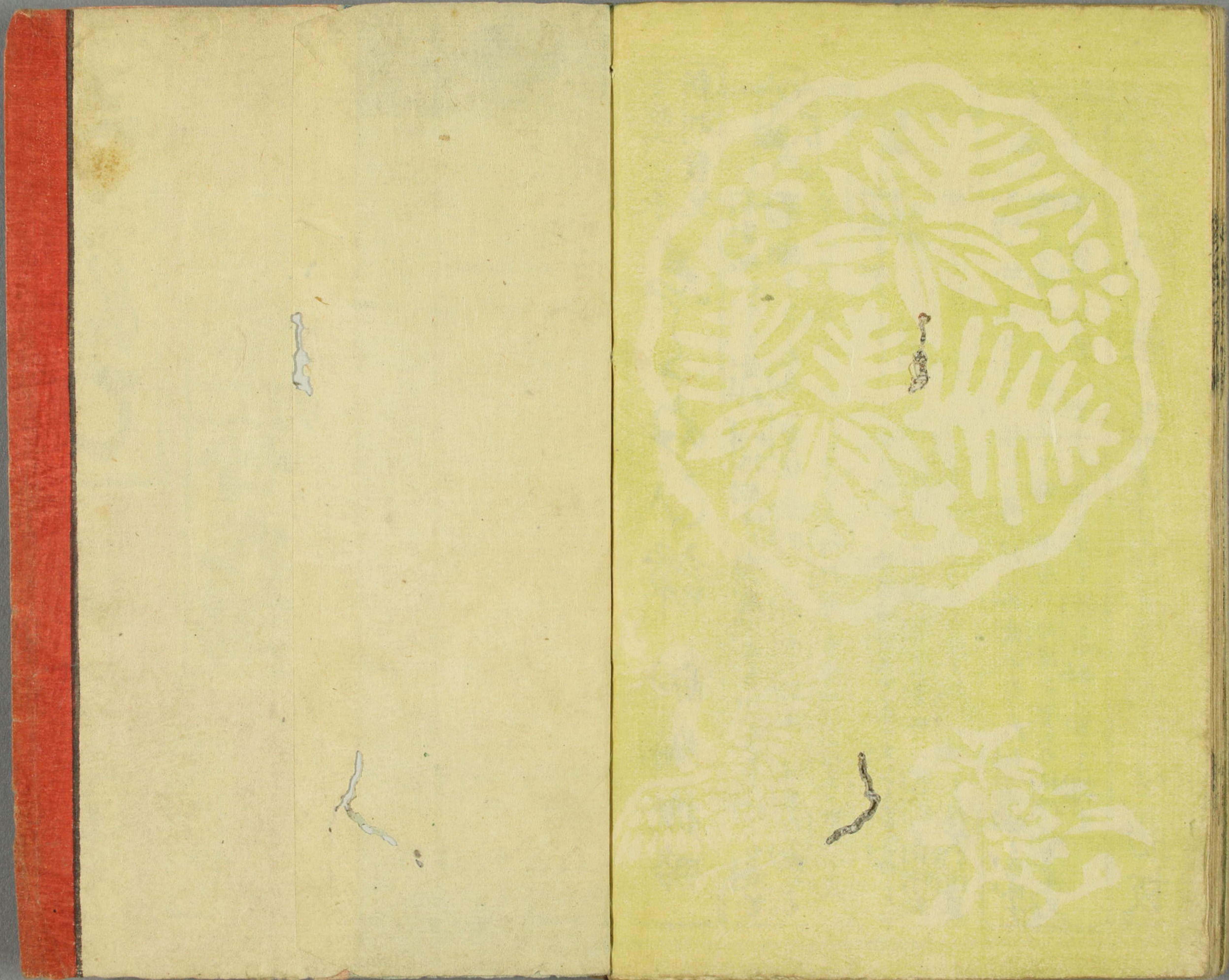
行意の瘦て色どあきく白梅が嫉妬の怪談焼耐火と闇の文も黒幕り  
一旦滅し雨声の鳴物小繫き五月雨霽り夏野の書割貞行ふ  
折らうと刺し小姓と娘後面の所作更安養坊が乱行の怪き縁を引道具

三十編  
ふい

多甲之助が怪猫退治頼政の鶴ふ似て葛蒲ふあゝぬ石竹の妹と吾国子  
常夏の傳花の御所ふ花を飾り偶居の梅津ふ實入の秋作鶴馬津兄  
弟の義烈符節と合する糸ふ至て若菜姫の事し轉す

## 地本草紙問屋人形町通住吉町廣岡屋幸助板







志紅らぬ紅ひ紅

春申



國貞画

廿九編

廣岡屋版

三魚